

# 南太秦だより

平成27年度前期  
学校評価のおしらせ

南太秦 前進・充実のキーワード

## 「自学につながる学習意欲」と「情報モラル」です。

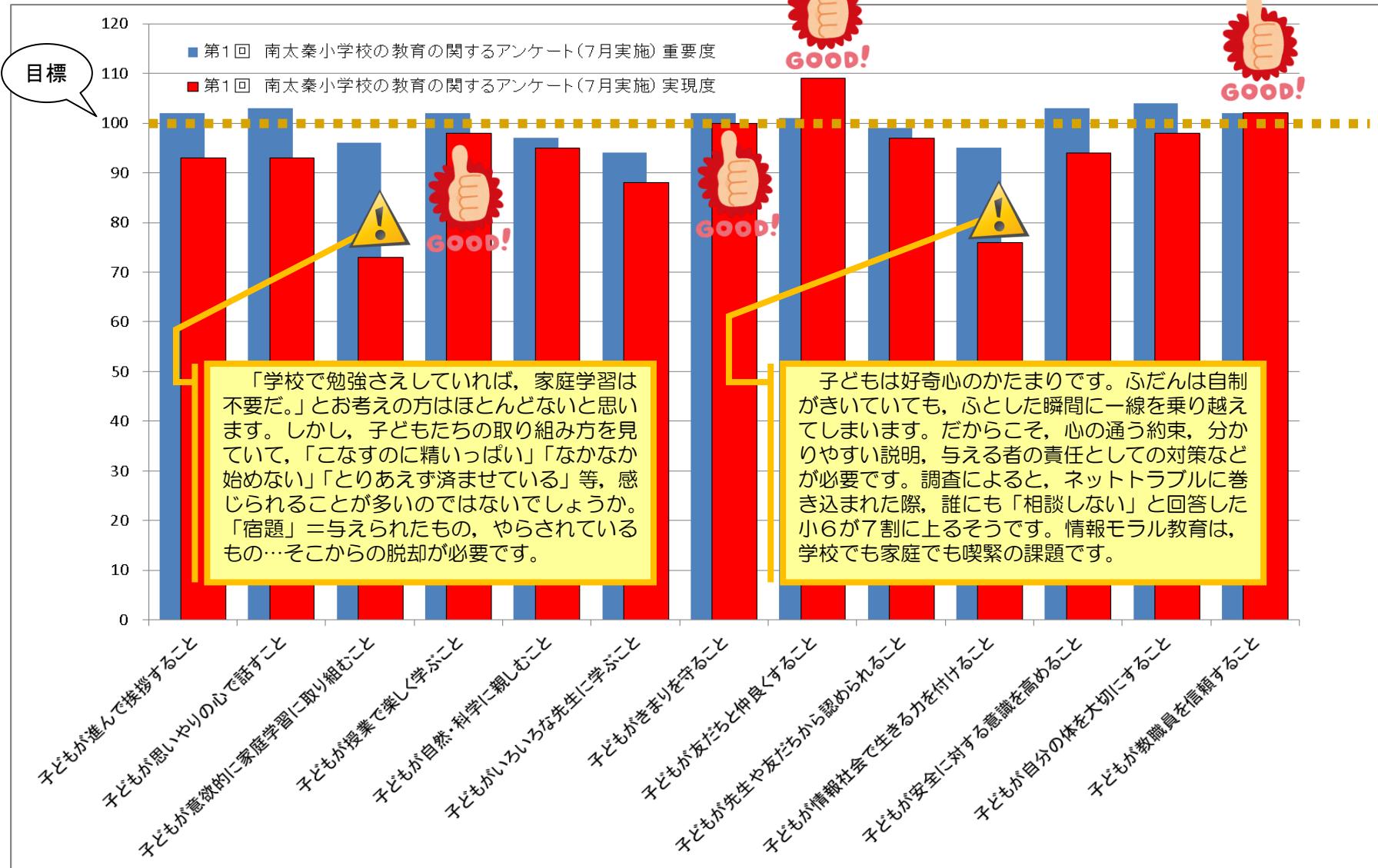
全4ページで、学校評価の結果をお知らせします。ぜひご一読いただき、今後の取組にご協力いただきますようよろしくお願いします。

平成27年10月9日  
京都市立南太秦小学校  
校長 清水 淳一

このページのグラフは、保護者の皆様にご協力いただいた「南太秦小学校の教育に関するアンケート」の結果をまとめたものです。アンケート結果からは、保護者の皆様のご理解・ご協力を強く感じておりますが、本校ではより厳しいデータ処理基準を設け、改善すべき課題は何か分析・検討しています。

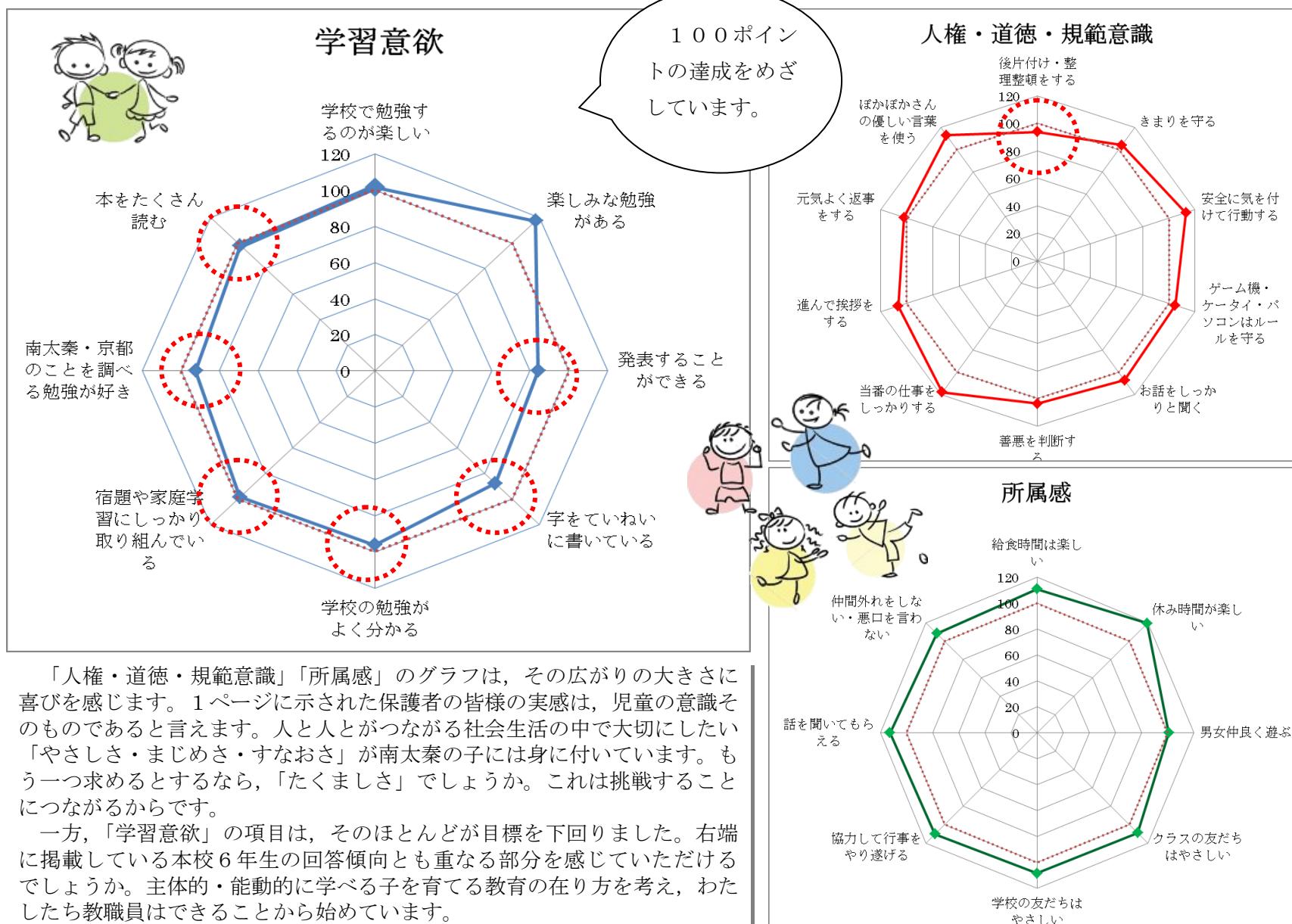
重要度・実現度の高い項目からは、「友だちと仲良くし、きまりをよく守る」「教職員を信頼し、学校で楽しく学んでいる」南太秦の子どもたちの姿が鮮明で、今後も地域・家庭・学校が三位一体となって児童の健全育成に取り組むことが望まれていると感じます。

対照的に、2つの項目で実現度が大きく落ち込みました。わたしたち教職員が、昨年度学校評価を踏まえて取組強化を図っている内容です。3ページ「今後のステップ」で詳しくお知らせします。



# やさしさ・まじめさ・すなおさは南太秦の子がほこれるところです。「自分から」「自分たちで」やれる子になってほしい、やはりにこからも「学習意欲の向上」に取り組む必要性を感じます。

(7月実施の「みんなのふりかえりシート」の集計結果をもとに、教職員で分析しました)



# 今後のステップ

## 「やらされる」勉強から「進んで取り組む」学習へ、「宿題」から「自学」へ、転換を図ります。

(例えば、こんなことを始めています)

- ・ グループワークを中心とした学習、課題解決の方法を自分・自分たちで選ぶ学習などを、これまで以上に導入しています。主体的・能動的な学習のことをアクティヴ・ラーニングと呼び、次の学習指導要領の中で大きく取り上げられます。
- ・ 5年生で初めて、従来の一方通行の発表会をやめ、セッション形式の「夏休み自由研究発表会」に挑戦しました。3年生は、1年生を招いて、学校行事等をくり返し紹介する異学年交流に取り組みました。
- ・ 夏休みの課題・宿題をすべての学年で減らし、自由研究や自主的な学習の充実を推奨しました。
- ・ 漢字の書き取り練習の「宿題」を廃止し、午後の帯時間に、担任の指導の下、全校で書き取り練習に取り組んでいます。「みなうず漢字検定」で、100点が取れるまでとことんがんばる取組も行います。
- ・ 「みなうずトライアルテスト」を5・6年生で実施し、模擬テスト・実力診断テストの形式に慣れるとともに、自身の現状を知り、学習計画が立てられるようにしています。

## 学習成果・学習効果の実感・「見える化」を進めます。

(例えば、こんなことを始めています)

- ・ どうなれば合格なのか、ゴールなのか、めあてを明確にしたり、数値目標をもたせたりしています。
- ・ 夏休みの新聞・えにっきなどを複数の教員で見、評価しました。他の児童にも紹介したい作品は「大賞」として校長室前に掲示しています。

## 家庭と連携して情報モラル教育を展開します。

(11月にすべての学年で授業を行います)

学年	ねらい
1年	個人情報を守ることの大切さを知り、自分のことを安易に他人に教えない態度を養う。
2年	他の人の作品を利用したいときには、作者の許しを得ることが必要であることを知ると共に、真似せずに自分で考えようとする態度を養う。
3年	他の人の写真を勝手に撮影したり、インターネット上に公開したりすることは肖像権の侵害に当たることを知り、情報の適切な使い方について考える。
4年	音楽や画像・映像には著作権があり、許可なく使用すると法律で処罰されることを知り、情報の適切な使い方について考える。
5年	無料通話アプリなどを使った仲間外れを題材に、SNSにおけるコミュニケーションの危険性を知り、適切な使い方について考える。
6年	インターネット上に流出した画像・情報は完全に消すことができないことを理解し、個人情報を適切に管理しようとする態度を養う。

※ 育成学級児童は交流学級で、またはくすのき学級で、一人一人に応じた指導方法で学習します。

- **南太秦の子どもたちに見られる学習意欲や主体性、問題解決力などの課題は、大学や企業の課題と全く同じです。大学生、社会人になっても、指示されるまでできない、新しいアイディアが出せない、改善点を見いだせないなど、憂慮すべき現状があります。小学生のころから「進んで学ぶ」こと=アクティブ・ラーニングを積み重ねていくことが、この社会的課題の解決につながっていくと思います。**
- 従来の講義型授業ではなく、積極的に協同学習を取り入れている学校が増えていると聞きます。グループの中で自分の得意分野を惜しみなく他者に伝え、構成者全員が高まることを目的としているそうです。本校の児童にも、評価してほしいと思うこと、評価してもらったことを隠すのではなく、また出し惜しみするのではなく、どんどん公表することのできる子どもを育てたいです。
- 情報モラルを学校としてカリキュラム化することはとても大切だと思います。その内

容をぜひとも保護者の方に知っていただき、日頃の子どもとのかかわりの中でくり返し伝えられるようになっていただきたいです。

- 子どもたちの学習意欲を高めていくためには、その子の存在価値を認め、理解できるように伝えてあげることが大切です。そのような受容の環境の中で、さまざまな取組を進めてください。
- 勉強でも仕事でもボランティア活動でも、「やらされている」と思えば苦痛でしかありません。楽しくやろう、自分からかかわろう、とすることが本当に大事です。学校の取組がその方向に向いていることを嬉しく思います。
- 協同の学びを拡げていくためには、環境の整備も必要です。机の配置を変える、すぐに動かせるようにする等、工夫をしてみてください。座席を固定しない、個別の道具を準備しないなど、自然と協同が生まれる、あるいは協同せざるを得ない環境づくりが、先進的な企業や大学で始まっています。
- 評価されることは、人にとって大きなモチベーションアップにつながります。褒められる機会、認められる機会を増やすという方針

は大いに賛成です。また、大人から「ありがとう」をたくさん投げかけてほしいです。人に感謝される喜びを、くり返しきり返し味わわせることで、自己有用感が高まっていくと思います。

- 失敗はあると思いますが、どうすればその失敗を克服できるか、失敗をどう生かすか考えられる「折れない人間」に育てたいです。そのためには、正直に伝えたら「許される」経験を積むことが必要だと思います。
- 「アクティブ・ラーニング」の考え方は、大学でも広がり始めています。小学生からの積み上げが、大学や社会で生きることは間違いないありません。それは、自分で将来設計をする力につながっていきます。
- 情報モラルに関する指導は積極的に進めर必要があります。権利に関すること、処罰に関することなど、誤った知識・行動が取り返しのつかないことになるという厳しい現実は指導しなければなりませんが、その根底にある「自分を大切にする」「自分と同じように他人を大切にする」という心情面の指導も忘れずに行ってほしいです。

